

# 営農情報（小麦）

第50号 令和4年10月21日

福岡大城農業協同組合

南筑後・久留米普及指導センター

## 1 排水対策

小麦は湿害に弱く、排水不良田では根傷みや生育ムラ、枯熟れ等が生じやすくなります。安定生産に向けて、周囲溝や枕地作溝等の表面排水対策と本暗きょや弾丸暗きょによる地下排水対策を組み合わせ、排水対策を徹底します。表面排水対策は、枕地で滞水しないよう、うね溝を排水口までつなぎます。また、麦作時に施工した周囲溝や弾丸暗きょは、大豆作時にそのまま活用することができます。

## 2 土壌改良資材の施用

小麦は酸性に弱く、土壌pHが低いと生育および収量・品質が低下します。そのため、下表を参考に土壌改良資材を施用し、麦の高品質・安定生産に努めます。

また、地力維持および人と環境にやさしい農業の推進のため、稲わらは焼却せずにつき込みます。

施用効果	資材名	施用量(10a当たり)
酸度矯正	生石灰	100kg
	苦土石灰	200kg
	オイスターミネラル	100kg～200kg

## 3 種子消毒

裸黒穂病やヤギシロトビムシ等による被害を防ぐため、種子消毒を徹底します。ベンレートTコートとアドマイヤー水和剤での種子消毒を基本とし、ヤギシロトビムシ多発田ではベンレートTコートとクルーザーFS30での種子消毒を実施します。

薬剤名	対象病虫害	処理方法
ベンレートTコート	裸黒穂病等	種子10kgに薬剤50gを乾粉衣する
アドマイヤー水和剤	ヤギシロトビムシ	種子10kgに薬剤15gを乾粉衣する
クルーザーFS30	ヤギシロトビムシ (多発田)	種子10kgに薬剤60mlを塗沫する

※クルーザーFS30とベンレートTコートを使用する際は、先に「クルーザーFS30」を塗沫処理し、乾燥させた後に、「ベンレートTコート」を処理します。

※「クルーザーFS30は、処理薬量が少ないため、塗沫処理しづらい場合は、処理薬量と同量程度の水をあらかじめ小麦種子になじませておく（湿らす程度）と塗沫処理がしやすくなります。（注意：クルーザーFS30原液を水で薄めないでください。）

## 4 播種

### (1) 播種適期

**11月20日～12月5日**

※適期播種を心がけ、晩播限界の12月15日までに播種します。

※ヤギシロトビムシ多発田では、播種適期内になるべく早く播種します。

### (2) 播種量

大豆後作	《適期播き》	晩播
5～6 kg/10a	6～7 kg/10a	8～9 kg/10a

※大豆後作は生育が旺盛になり倒伏しやすくなるため、播種量を1 kg/10a程度減らします。

## 5 施肥基準 (10a当り)

大豆後作の場合は、水稻後作に比べ地力窒素の影響が大きいいため、基肥を減らします。ちくしW2号はタンパク質含有量向上のため、必ず穂揃い期追肥を行います。

品種名	基肥	追肥	
		1回目	穂揃い期
シロガネコムギ	ちくごのめぐみ444 40kg (大豆あとは20kg以下)	麦追肥一発2号 40kg	—
ちくしW2号	ちくごのめぐみ444 40kg (大豆あとは20kg以下)	硬質小麦専用追肥 (3004) 30kg	尿素4 kg×2回 (水100ℓ)

## 6 雑草対策

	薬剤名	処理時期	10 a 当たり 使用量	留意事項
茎葉 処 理 剤	ラウンドアップ マックスロード	播種前または 播種後出芽前まで	500ml (水50L) (少量散布25～50L)	・必ず土壤処理剤も散布する ・飛散防止に注意する
	バスタ液剤		500ml (水100L)	
土 壌 処 理 剤	リベレーター フロアブル	播種後～麦3葉期 (雑草発生前 ～イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml (水100L)	・土壤が湿りすぎていると効果むらや薬害の原因になることがある ・まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない
	リベレーターG (細粒剤)	播種後～麦2葉期 (雑草発生前 ～イネ科雑草1葉期まで)	4～5 kg	

※ラウンドアップマックスロードとリベレーターフロアブルを混ぜると、成分が沈殿するため混用はできません。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!**